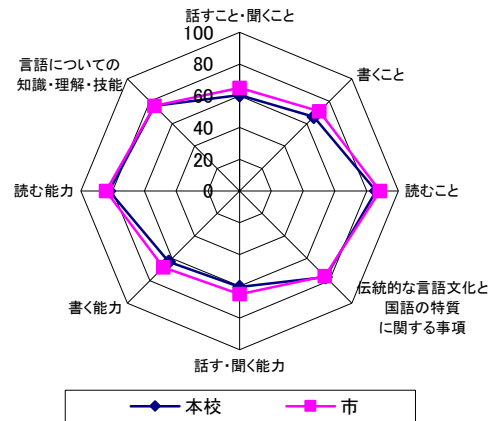


宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	60.5	65.0	62.9
	書くこと	66.2	70.9	71.3
	読むこと	86.0	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.6	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	60.5	65.0	62.9
	書く能力	63.1	68.0	68.0
	読む能力	82.2	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	75.9	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

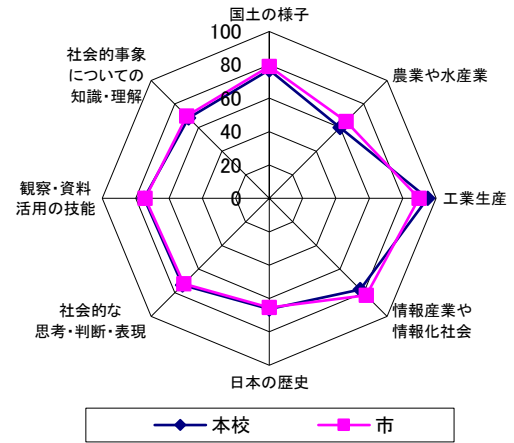
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、他の領域より低い。</p> <p>●話し合いの意図を考えながら、話し合いの内容を聞くことについて、概ね聞き取れることはできているものの、司会者の役割を理解して計画的に話し合う内容を記述する問題の正答率が低く、聞き取ったことを自分の言葉で記述することに課題が見られる。</p>	<p>・聞き取ったことのメモの取り方や、理解したことをまとめる力を養いたい。聞き取りのみならず、読み取った内容を要約したり、自分の言葉で言い換えたりする学習を繰り返し行う</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均同様他の領域と比べて低い。</p> <p>○記事を読んで意見文を書く問題では、資料の内容を読み取る問題の正答率は市の平均より低い。読み取った内容を文章に適切に表す問題では、市の平均より正答率が高い。資料の読み取りについては他教科の学習も役立っていると思われる。</p> <p>●作文の問題では、指定された長さや段落構成を考えながら書くことに課題がある。</p>	<p>・記述問題への対策として、資料から読み取ったことを自分の言葉で要約したり、説明をしたりする活動を取り入れる。作文学習では、自分の意見とその理由を区別して書くことができるように授業を通して指導をしていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、他の領域より高いが、市の平均より低い。</p> <p>○物語文の読み取りについては、日頃から関心が高い。朝の読書や家読などを活用して書物に触れ合う機会を多くもっている成果と思われる。</p>	<p>・今後も読書を励行し、多くの書物に触れることで読解力を高めるとともに、問題に対する解答の方法などについてもドリル学習等を生かして、習熟させるようにする。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、他の領域と同程度であった。</p> <p>○第6学年配当漢字は、市の平均と比べてほぼ同じ正答率であった。朝の学習やミニテスト、宿題などを活用し、繰り返し練習していることの結果と思われる。</p> <p>○文の構成(述語)についての理解を問う問題では、市の平均より正答率が高い。</p> <p>●第5学年の配当漢字を書く問題では、誤答が多い「組織」を書かせる問題の正答率が市の平均46パーセントよりも更に低かった。</p>	<p>・基本的な言語についての学習や練習を継続して行うとともに、児童の状況に応じて既習事項の復習なども取り入れながら、基礎基本の定着に努めたい。</p> <p>・文の構成を問う問題も市の平均よりは高いものの正答率としては、高くはない。スキルなどを使って朝の学習などで個に応じた指導の充実を図る。</p>

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	76.9	79.1	74.9
	農業や水産業	60.0	65.1	63.7
	工業生産	94.9	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	77.1	82.2	73.1
	日本の歴史	66.3	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	73.5	72.2	69.0
	観察・資料活用技能	75.0	74.3	69.2
	社会的な事象についての知識・理解	68.3	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

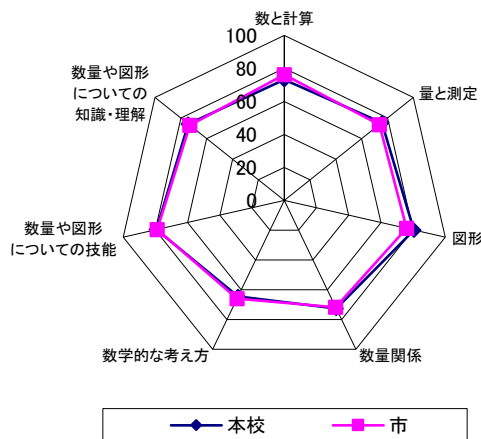
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は、本校平均は市の平均より低い、どの全問正答の児童もいるなど知識の定着に個人差が大きい。 ●日本の周辺の海洋名については理解されているが、気候の特徴や主な国の名称や位置についての理解度が低い。この傾向は市の傾向と同じである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国土の様子については、5年の最初の単元であるが、学習終了後も地図帳を活用したり、デジタル教材を活用して、国の位置などについても意識をもたせることで、知識の定着を図りたい。 ・海洋名や気候の特徴については、中学校への橋渡しとなる部分でもあるので、6年生の学習の中でも取り入れて指導していく。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率が他の領域より低い。 ●資料や地図を読み取る力を見る問題では正答率が高く身に付いていると考えられるが、そこから考察し、表現する力が身に付いてない。今回は「米作りの作業工程と作業を行う季節について理解している」の項目において、市の平均を大きく下回っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「米作り」の学習は5年生の学習内容であり、その後の復習で取り上げなかったため、知識を確認する機会がなく、特に作業工程や作業を行う季節について問う問題の正答率が低かった。既習事項についても復習をしたり、ニュースなどから振り返りをさせるなど、広い視野をもって学べるような指導を工夫していく。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均正答率より高く、工業製品についての知識を問う問題や生産の工夫や努力について考える問題での正答率は90%を超えていた。 ○工業生産の工程については、出前授業や、新聞やかるたづくりなどの学習を取り入れたことで児童の興味や関心が深まり、理解につながったと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工業製品がどんなものであるかや製品を生産するための工夫や努力について考える問題については、90%以上の正答率であった。知識や理解を更に深めるために、児童が意欲的に学習に取り組めるような活動を設定するなど、指導の工夫をしていく。
情報産業や情報化社会	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均正答率より低い。 ○マスメディアの種類については、概ね理解されていると思われる。 ●医療での情報ネットワークの利便性について資料を読み取り考察する問題では、正答率が低かった。自分たちの生活に活用させていく力を身に付けることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マスメディアについては、日常の社会生活から自分のものとして理解できるように指導したい。 ・医療の情報ネットワークのように、身近な問題として考えていくことが難しい問題は、動画やデジタル教材などを積極的に取り入れる。
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は設問によってばらつきがあるが、市の平均とほぼ同じである。 ○歴史学習には興味や意欲をもって取り組んだ児童が多く、知識が定着した要因だと思われる。 ●「書院造」や「文明開化」などの文言を正しく書くことができずに正答とならなかった児童も多かった。授業内で、その都度漢字で正しく書けるようにしていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学習については、知識の定着のために資料を準備したり、デジタル教材を活用して、より興味を喚起できるようにしたい。 ・歴史事項や歴史上の人物など、漢字で正しく記述できるように、授業内で意識付けを図ったり、ノート指導を充実させたりすることで、定着させていく。

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.2	76.2	72.9
	量と測定	75.5	73.6	70.6
	図形	80.5	76.0	72.1
	数量関係	72.6	71.8	66.9
観点別	数学的な考え方	64.5	65.9	58.0
	数量や図形についての技能	79.4	78.9	76.2
	数量や図形についての知識・理解	74.3	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

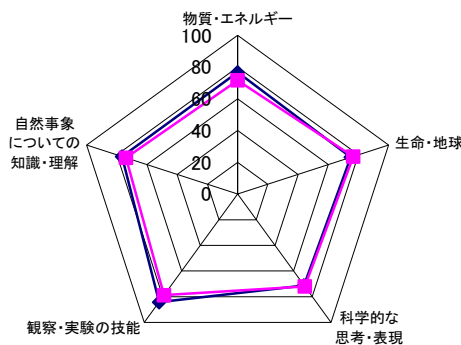
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は他の領域より高い。 ○計算については、市の平均より低いものの、4月の全国学力調査の結果と比べて差が縮まっている。日々の学習の中で、演習を多く取り入れて習熟を図ってきたことの結果が出ていると思われる。 ●規則性の問題で問題の場面を理解し、並び方についての説明を記述する問題は全国や市の傾向と同じだが、市の平均より正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算分野については、習熟の状況に合わせて既習事項の復習を含む計算練習を朝の学習や宿題などで取り組む機会を多くする。間違った問題については、やり直しをさせることによって、正しい計算の方法を身に付ける。 説明の仕方については、授業内で一人一人が自分の言葉で説明できるようにノートの取り方や発表のさせ方など個に応じた指導方法に工夫したい。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は概ね市の平均より高い。 ○速度に関する問題や面積、体積を求める学習については、習熟度別クラスを設けて、演習をたくさん行ってきた成果が表れていると思われる。 ●単位量あたりの大きさを求める問題は、市や全国の傾向と同じように低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 単位あたりの大きさを求める問題では、計算式が何を求めているのかを理解できるようにしていきたい。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は市の平均より高い。 ○図形の学習でも、習熟度別クラスを設けて指導をしてきた。少人数での指導が効果を上げていると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の復習を通して、学習内容が定着するようにする。作図については、個に応じた指導の充実を図る。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、「割合と比」以外は市の平均正答率より高い。 ○文字と式や比例の問題は、授業後の復習の時間を多くとり、朝の学習や宿題などで演習を積んできた成果であると思われる。 ●帯グラフから割合を読み取り、比較量を求める問題は、市の平均正答率よりやや低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 復習の時間を多くとり、中学校での学習に深くつながる比例や文字と式については、より一層定着できるようにする。 グラフから比較量を求める問題については、授業の中で取り上げ、理解を深められるようにする。

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	76.7	71.6	67.4
	生命・地球	74.9	76.6	75.5
観点別	科学的な思考・表現	71.2	72.1	68.8
	観察・実験の技能	84.2	78.7	76.3
	自然事象についての知識・理解	76.6	73.9	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



—●— 本校 —■— 市

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均正答率より高い。特に6学年での学習内容を問う問題の正答率が高い。 ○物の燃え方や水溶液の性質については、知識が定着していると考えられる。実験を通して考察していく指導を継続して行った成果と思われる。 ●ふりこの問題の正答率は、市や全国と同じく低い傾向であった。5年生の学習内容であり、忘れてしまっていると考えられる。既習の学習内容の復習をどのように取り入れていくかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりこの問題については、市や全国と同じく低い傾向であった。既習事項の復習をする時間を意図的に設けて知識が定着できるようにする。 ・実験をもとに、考察させたりノートに自分の言葉でまとめさせたりする指導を継続して行う。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ・「物質・エネルギー」の正答率より低い。 ○「人の誕生」の設問の正答率が高い。学習時も児童の意欲が高く、進んで学習に取り組む様子が見られていた。意欲や興味の高い学習は内容の定着もよいと考えられる。 ●唾液の働きを調べる実験の修正を考える問題は、市の平均より低い。自分の言葉で説明できるような表現力を身に付けることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な学習内容の定着に向けた復習を継続していくとともに、児童の状況に応じて、発展的な学習や記述の演習なども取り入れていきたい。 ・授業では、比較実験の方法や考察についても言葉で記述できるように、方法を示したり時間をとったりする。

宇都宮市立宮の原小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ドリル学習による反復練習 ・朝の学習の継続と取り出し支援 ・習熟度別学習の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の漢字の問題では、市の平均と比べてほぼ同じ正答率であった。 ・算数の計算については、市の平均より低いものの、4月の全国学力調査の結果と比べて差が縮まった。
書く活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・条件に合わせて書く活動を取り入れる。時間・文字数・段落・キーワードなど ・国語以外の学習活動においても積極的に書く活動を取り入れる。理科の考察・算数の考え方の説明など 	<ul style="list-style-type: none"> ・記事を読んで意見文を書く問題で、読み取った内容を文章に適切に表す問題では、市の平均より正答率が高い。 ・作文の問題では、指定された長さや段落構成を考えながら書くことに課題がある。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・引き続き、各教科の基礎・基本的内容の定着を図る。
- ・引き続き、書く活動の充実を図る。様々な場面で、条件に合わせて文章を書く経験を積ませる中で、言葉や漢字の使い方などについても意識的に指導していく。
- ・応用、発展的な課題を積極的に取り入れることで、応用力を伸ばすと共に、身に付けてた知識を活用する楽しさを味わわせる機会を増やしていく。